

さとoya

発行所 ▶ 群馬県里親の会事務局 前橋市新前橋町 13-12 社会福祉総合センター内 HP ▶ gunmasatooya.com
発行人 ▶ 前川知洋 発行日 ▶ 2025 年（令和 7 年）3 月 31 日 Email ▶ satooya@g-shakyo.or.jp



2 年目を迎える

シン・ピアサポート

群馬県里親の会 会長
前川 知洋
Tomohiro Maegawa



昨年 2024 年（令和 6 年）4 月よりシン・ピアサポート事業（正式名：令和 6 年度群馬県里親訪問支援・相互交流事業）を始動して 2 年目を迎えようとしています。この

間、皆さまからのご協力をいただき、小さな一歩ですが、力強い一歩を踏み出すことができました。ありがとうございました。

これは、里親として同じような立場の仲間同士の支え合いであるピアサポートを拡充し、県内全里親を対象に県より委ねられた事業です。従来は希望した一部の里親さんの活動でしたが、全ての登録里親さんが相互に交流したり、訪問できる仕組みになりました。

グループはなるべく居住地の近くを基準に組むことで、ご近所付き合いをと考えていましたが、里親さん同士の家にかなり距離があったりでご不便をお掛けしたグループもあり、本当に申し訳なく感じています。

サポート里親とサブサポート里親を中心に各

グループに運営をお任せし、交流を深め、悩みの相談や養育スキルの深まりに繋がるような活動を目指してきました。

グループ活動を担ってくださるサポート里親さんには、令和 5 年度に行われた養育・養子縁組里親登録更新研修で受講して好評を博した「イライラしない子育て講座」SS 式イライラしない子育て法®（コミュニケーション・ペアレンティング・アプローチ通称 CPA）のトレーナー養成講座を受講した方々にお願いしました。

新規にサポート里親さんになっていただく方には、现阶段では群馬県のオリジナルプログラムである「ほめトレ」（ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング）を受講していただくことになりました。なお、今後も新規サポート里親候補の方には随時、継続的に受講していただく仕組みを検討中です。

その他にも、「誰にも相談できなかった」をゼロにするため、サポート里親さんに一番求められるのは「聴く力」ではないかと考えています。希望するサブサポート里親さんも含めて、「傾聴研修」を実施しました。グループ内の里親さんの不安や悩みの緩和や解消の一助となることを目指してきました。

さらに、里親向けの養育プログラムである「フォスタリングチェンジ・プログラム」のファシリテーター養成講座（東京開催）に、群馬県里親の会から 2 名の方に受講していただきました。

た。里親を育てトレーニングする側の研修であるためハードルの高い学びでしたが、今後の展開を期待するところです。

フォスタリングチェンジ・プログラムファシリテーター養成講座

プログラムを実施できるファシリテーターを養成するための4日間にわたるトレーニング講座。受講対象は、フォスタリング機関（里親支援機関）や児童相談所等で、親支援専門職として里親支援業務を行っている方となっていますが、今回は里親の立場から参加することができました。この体験レポートを4ページに掲載しました。

また、群馬県の児童養護施設を拠点に開催される「里親トレーニング事業」に参加させていただくことによっても意義深い学びと交流が生まれていることも喜ばしいことです。

令和6年度に複数回開催された「里親トレーニング事業」の中から、去る2月開催の「ライフ・ストーリー・ワークについて」の体験レポートを5ページに掲載しました。

このようにしてシン・ピアサポートを通して里親同士あるいは家族同士の繋がりが生まれています。

サポート里親 会議より



シン・ピアサポート事業ではグループを取りまとめてくださる「サポート里親さん」の働きなくしては成し遂げられません。ご自身の里親業に加えグループ活動に尽くしてくださいました。ありがとうございました。

サポ里さんは、年間9回におよぶ「サポート里親会議」に参加していただき、グループ運営について話し合いながら活動を続けました。第9回の会議の中で、感想をはじめ今後の課題などをあげていただきました。これからも皆さんと課題を共有しながら、より良いピアサポグループを作り上げたいと思っています。



まだ手探りのような状態。ようやく1年間を活動してみて、ピアサポのことが少しずつ周知されて来たように思う。根気強くこの活動を紹介し参加をうながして行きたい。



グループでの集まりは年間4回が精一杯だったが、次年度はもう少しチャレンジしてみようと思う。



メンバーがこのピアサポグループに何を求めているのだろうか。ニーズをさぐって行きたい。



単独グループで企画できなかったのが、複数の近隣のピアサポグループで集まるようにした。今年は互いを知るための交流がほとんどだった。

自分だけのグループで悩まないで、お隣のグループにもヘルプするのも良いなと思いました。新たな出会いも増えますよね！

土日と平日の「ハイブリッド開催」もありですね。中には夜に集まろうと企画するグループもありやと……。



土日なら参加できるメンバーさんもいれば、平日参加を希望する方々もあって、どうバランスを取れば良いやら……痛し痒しです。

今後グループの活動が深まり相互にお宅訪問が適えば、委託のない里親さんにあっても子育ての実際、お子さんとのふれあいを通して子育ての実感を感じてもらえるでしょう。また、レスパイトの要請を受けあったり、助言を得ることで、いざ受託という時にスムーズな養育環境を整えて行けると思います。

ある里父さんの「希薄な社会にあって、シン・ピアサポートを通して里親特有な悩みもある中、同じ思いの仲間と知り合えたことは本当に良かった」という声が印象的でした。

これからもシン・ピアサポートをよろしくお願いいたします。





グループとしての活動に奔走していたため、個別のメンバーさんとじっくりと踏み込んだ話ができなかったように思う。



戸別訪問の場合は二人ペアでたずねるのがベストなのでしょうが、サブ・サポート里親さんとの日程が合わなくて苦勞した。



幼児を受託している里親さん、高学年を受託している里親さん、また未委託の里親さんも様々な立場の集まりとなった。

同じ境遇のメンバーでグループ編成を……という意見もありましたが、だれもが、やがてどこかの立場になるのであろうから様々な立場の集まりで OK かなと思います。



チョットしたリアクションがあるだけでもサボ里さんたちは嬉しいのです。応答、よろしくお願いします。



何度か連絡を差し上げるのだが、応答がないメンバーさんも。しつこくしたらまずいかな……と不安になっている。



メンバーさんにグループ活動の企画をお願いしている。メンバーさんの得意分野が発揮されて、楽しくバラエティに富んだ展開になった。自分自身が楽しくやれるグループを目指している。自分が楽しんでいないと、メンバーさんも緊張するんじゃないかなと思う。



まずは楽しむことから良いんですね。肩の力を抜いてやりましょ！



里親として学びになるようなことを考えてみたが、皆さん忙しくて実施に至らず。でも、切り換えて楽しく過ごす時間を持つことから始めた。



里親当事者や里子当事者の方々などをお招きして、お話を聞く機会を設けました。

だれかを招いて学ぶのは良いアイデアですね。里専さんの中には「出前講座はじめた」という企画もあるようです。

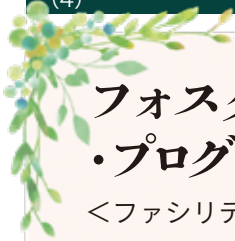


LINE グループを作成し、連絡や互いの励まし合いも生まれてきている。LINE で相談、LINE で報告、LINE で応援等々ができるようになって来た。



次のグループを生み出すことができたことは感謝でした。ただ、今後、新しいグループのサボ里さん、そして自分のグループの次のサボ里さんに受け継ぐ場合、規定の講習を随時受けられるような仕組みが必要だと思う。

様々なご意見を聞かせていただきありがとうございました。サボ里さんの苦勞を垣間見るようで頭が下がる思いです。グループの皆さんも少しずつでもかまいませんので、お気軽に関わりを持ってくだされば嬉しいです。孤立しない里親、互いに励まし合える里親、チームで協力し合える里親。そんなピアサポです。



フォスタリングチェンジ ・プログラム *Fostering Change Program* ＜ファシリテーター養成講座＞

参加リポート：藤原幸生

フォスタリングチェンジ・プログラム（以下「FCP」）は里親向けの養育プログラムで12のセッションからなる体系化された緻密な内容です。資料写真に



もあるように、テキストはA4判500ページにもなるボリューム。それを内容を指導するのがファシリテーターというわけですから、受講対象も「フォスタリング機

関（里親支援機関）や児童相談所等で、親支援専門職として里親支援業務を行っている方」というのも合点が行きました。

なのにです。今回は教えてもらう側である里親の藤原と福島梓さんが「教える側の学び、をするという場違いな参加となりました。でも、現場で働く里親だからこそ、実体験をもって里親さんに分かち合える学びになるのではないかと、なかば開き直って学んだ次第です。

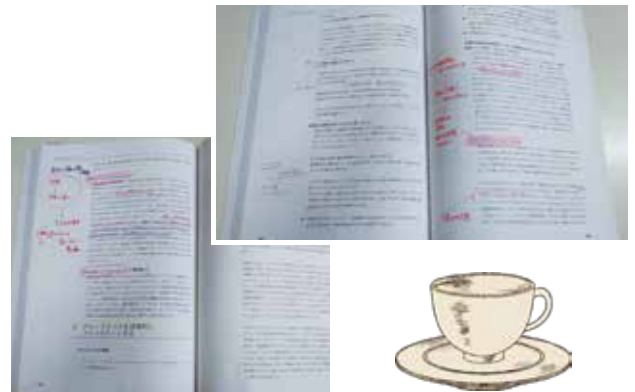
まるまる4日間にわたる研修は、2025年1月27日（月）と28日（火）は朝9時～夕方5時までzoomによるオンライン講習。

翌週の2月6日（木）と7日（金）は東京会場にて対面の講義と実技研修でした。※私は実父の葬儀が対面講習日程と重なったため、後に補講とレポート提出という課題を残したままである（3月末現在）。

さて、内容を紹介しようと思います。前半の2日間は、グループの仲間作りをいかに構築して行くかという基本理念。グループ活動の「導入」から「ブレイクアウト」の工夫など。これはピアサポ

グループでも応用できるような内容でした。

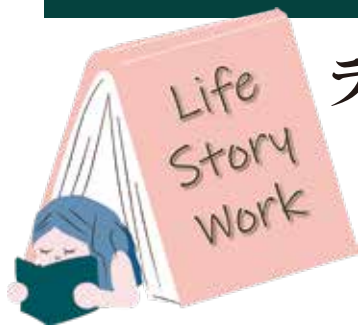
この全4日間ですべてのセッションを網羅することはできません。中でも「肯定的なしつけ」のセッションでは、子どもの行動に対して合理的な結果がついてくることを「しつける」、プロセスを学びました。ところが、親の気分次第で「合理的な、結果ではない対応をしてしまうのが問題。そんな学びをグループで話し合ったり、東京での対面研修の時に実演するための打合せもしました。ロールプレイの台本を作ったり、参加者に提示するためのプレゼン資料（模造紙に手書きですが）を準備したりと具体的な研修で充実していました。



「まだまだ学び足りない」というのが正直な感想です。これはまず「教えていただく側、の体験も必要だ」と思いますし、それを踏まえながら、この分厚いテキストを活かつつ、今度は伝える側に、つまりファシリテーターとしての働きになるのだと思いました。

とてもよいプログラムです。魅力的で奥の深い学びですが、まだ緒に就いたばかりです。これは腰を据えて取り組まなければなりません。群馬県では私たちが最初です。どう展開すべきかはこれからです。

さいわいにも、補講では、すでに実施している近隣のプログラムに参加せよとの命を受けていますので、さらに体験を積みたいと思っている次第です。この記事を読んで興味を持つ方があればご一報ください。一緒に学んでみてはいかがでしょうか。



ライフ <里親トレーニング事業> ストーリー ワーク

参加レポート：
片野さやか

2月3日(月) 徳永祥子先生のライフストーリーワークについての講演を聴きました。今までは実親さんについてのことや保護された理由などの情報にとらわれてしまいがちだったところ、先生は「子どもが自分の人生を「主体的に」生きていく素地作り、とおっしゃっていて、前向きに子どもと取り組んでいきたいという気持ちがより強くなりました。

更に、ライフストーリーワークは一度伝えて終わりではなく伝える際は「点滴のように、少しずつのことでした。とある当事者の方が告知について話していた中で「衝撃の分散、という言葉を使っていたのですが、それにも通じる考え方だと思います。先生は「子どもと一緒に、を大切にし、子どもと一緒に未来を考えたり、子どもの気持ちに目を向けたり、子どもの「知る権利」の保障など、子どもファーストの考え方は忘れずにいたいです。

- ライフストーリーワークについては、
- 「過去」これまでの自分を知ること
 - 「現在」現在の状況を理解すること
 - 「未来」将来を考えること

この3つの軸での説明がわかりやすかったです。特別養子縁組した6才の娘は「過去」の話聞きがたります。「どうしてこのお家に来たの」「私が来てお父さんとお母さんはどう思った」「どうして私が来るの待ってたの」など、その度にどれほど私たちが娘を心待ちにしていたか、家に来てくれてとても嬉しくて大切に思っていることなどを伝えています。



こちらからも言葉や態度で子どもに愛情を伝え、先生が話していた子どもの「好き好き大好き貯金」を貯めていきたいです。

また、里親として子どもと生活していく中で、中学生や高校生での委託の場合は里親家庭でどのようにライフストーリーワークを進めようかと考えていたのですが、「未来」のことを話すと良いとのこととても参考になりました。これから先どうなるのか、進学や就職はどこから通うのか、その為に今何をするのかなど子どもを尊重しつつ一緒に考えることで、共に歩みながら支えていきたいです。

ライフストーリーワークの段階の話では、小学校入学までに一般家庭の子どもと同程度の情報(親の名前、出生地・出生病院、出生の情報、実親の職業・国籍など)は伝えておく必要があるということでした。その際、子どもが理解できるまで待たない

というのはその通りだと思います。どの段階で何を話すか、どのように伝えるかなどの配慮は必要だと思いますが、理解できるまで待つと、逆にタイミングを逃してしまうそうです。そのとき理解できなかったとしても、伝え続けることで点が線となり理解する日がくるのだと思っています。

今回、徳永先生の講演を聴いて子どもに対してどんな「過去」があっても、「現在」里親家庭で安心して過ごすことができ、明るい「未来」を描けるように関わっていけたらとの思いが強くなりました。その為に今回学んだことも活かしていきたいと思っています。



徳永 祥子 立命館大学准教授
ソーシャルワーク / 児童福祉学
[略歴] 英国ルートン大学卒業後、京都府立大学大学院で学ぶ。大学院ではライフストーリーワークを学び、その後、児童福祉施設や里親家庭で暮らす子どもに向けた実践と研究を行っている。



楽しかったよ!!

こいのぼりバンド

2025年2月8日[土] 午前10:30～11:30

会場

前橋市総合福祉会館

いきいき談話室(和室)

シン・ピアサポート、
第4回里親相互交流事
業として実施された音
楽会は、県内で活躍中の「こいのぼりバンド」
さんをお招きして開催しました。

ボーカルのよーこママ、ギターのしーなパパ、
ピアノのさえこさんの3人組のユニークで楽
しいバンドでした。パネルシアターで愉快なお
話、しーなパパの不思議な手品、そして、よー
こママのオリジナルソング「さんぽっぽ」など
歌声を楽しみました。



子どもたちも参加した歌遊び。
歌って踊って、会場は一体感に包
まれた。たっのし〜!



来場者もいっしょに歌おうの場面では、飛び
入り参加の子どもたちは大ハッスル!!。

最後は会場一体となって「にじ」を歌い盛り
上がりました。とても楽しい時間となりました。
こいのぼりバンドの皆さん、ありがとうございました。



しーなパパの手品



よーこママのパネルシアター

令和7年度 群馬県里親の会定期総会のお知らせ

5月31日(土) 午後開催

群馬県社会福祉総合センター 203 会議室
(前橋市新前橋町 13-12)

皆様のご支援に感謝いたします。

2024(令和6)年度も、多くの心あたたまご支援をいただき
ました。ありがとうございました。 ※以下、敬称を略して紹介します。

支援いただいた団体及び機関名

助成金の内容

社会福祉法人 群馬県共同募金会

里子の自動車運転免許取得助成金(会員が養育する里子の運転免許取
得にかかる費用一部助成)公益財団法人
上毛新聞厚生福祉事業団「愛の募金」

本会及び里親についての周知、広報活動一部助成

太陽誘電(株) 等年末義捐金

里親制度啓発事業

損保ジャパン(株)

防災ジャパンプロジェクト(子どもたちと保護者を対象に、災害から身
を守る「知恵や技」について身体を動かしながら楽しく学ぶプロジェクト)

(株) ストームレーベルズ

「ゆたかな育ちと自立」応援助成事業(七五三のお祝い費用の一部助成)
全国社会福祉協議会経由

(株) セイバン

会員が養育する新1年生にランドセル寄贈 全国里親会経由

個人寄付者6名、賛助会員8名、タイガーマスク運動、株式会社東部オート

【編集後記】 毎回、年度の終わりに発行する「会報
さとおや」は1年を振り返る機会だ。初めて取り組
んだシンピアサポートは多くの協力を得てなんとか
今日を迎えた。感謝だ。さあ、新年度も進もう。つ
ながり始めた里親仲間の励ましが原動力だ。

群馬県里親の会 事務局

〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町 13-12

(群馬県社会福祉総合センター)

TEL: 027-255-6034 FAX: 027-255-6173

E-mail: satooya@g-shakyo.or.jp (荒川)

satooya2@g-shakyo.or.jp (岩上) (題字: 上原正男)